

## H30年度 学校経営方針

育てたい人間像

高い志とグローバルな視野を持って地域社会に貢献できる人材

### メリット

- ・ 高い志を持った生徒
- ・ 市内の中心校で交通アクセスが良い
- ・ モダンな校舎（生命館）
- ・ 同窓会の支援
- ・ 2つの県指定事業
- ・ 教員の授業力が高い

変わらぬ色の三つ柏  
若き生命 高き志操  
ペンの象る英知をもちて

### 高校改革の動向

- ・ H26～30 第2次教育ビジョン
- ・ 岐阜県立高等学校活性化計画
- ・ H32年から大学入試改革
- ・ H34年から次期学習指導要領

### デメリット

- ・ 岐阜地区2番目の進学校という位置付け（岐阜高校との差別化しにくい）
- ・ 普通科であるためPRする活動が少ない
- ・ 地域連携の機会が少ない
- ・ H31年以降急速な少子化

## 本校の現状と課題

### 1 生徒の実態

- 誠実で礼儀正しく、高い志を持って学ぶ生徒が多い。
- 頭髪・服装・行動ともに高校生らしく、人間関係も落ち着いている。
- 部活動への加入率は約90%で、文武両道を目指す生徒が多い。
- 一方で、挫折した経験は少なく、打たれ弱い面もある。

### 2 学習・進路状況

- 入学時の学習状況（S社模試 現2年生の入学時平均偏差値）

1年7月 国：60.5 数：60.5 英：59.6 総合：62.0

- ここ数年の本校の進学実績は、国公立大学を中心に堅実な成果（H29末国公立合格者現役185名、過年度35名 計220名）を上げている。
- また、H29末入試において東京大学に現役で2名の合格者を出した。これは、12年ぶりの快挙。今後、難関国公立、医学部志望者の増加が課題。
- 一方で、本校の進学実績の一つの指標となっているのは名古屋大学への合格者（H28末23人→H29末14人）であり、それも今後の課題となる。
- 県指定事業「魅力ある高校づくり推進事業（H28～）」を活用し、次期学習指導要領や高大接続改革を踏まえたアクティブ・ラーニング型授業改善を実施。
- 県指定事業「進学指導重点校事業（H29～）」を活用し、高い志を持つ生徒の早期育成を図るとともに、高大接続改革を踏まえた進学指導体制の構築に努めている。

## 本年度の学校経営上の重点事項

### 1 カリキュラム開発事業

- アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善
  - ・各教科単位でAL型授業スタイルの確立を行い、指導計画に反映させる。
  - ・学びの深化を測る評価方法を研究する。
- 進学重視型単位制カリキュラムの研究と開発
  - ・より高い進学目標に対応した授業展開や探究的な学びを可能にする進学重視型単位制カリキュラムの開発を行う。(H31年度入学制の教育課程の編成)

### 2 進学指導重点校事業

- 1年生から主体的かつ継続的に難関大学を目指す生徒を育成する。
- H32年からの大学入試改革を踏まえた、新しい進路指導体制を確立する。  
(民間英語検定、記述式問題、AO入試、eポートフォリオへの対応)

### 3 高大連携の推進

- 名古屋大学 MIRAI GSCへの積極的な参加と組織的支援

### 4 地域社会への貢献（生徒を実社会に触れさせることが目的）

- 生徒会、部活動、学習活動において、積極的に地域社会に関わらせる教育活動を推進する。

### 5 組織的な生徒指導・教育相談体制

- 生徒指導、教育相談、学年、保健室、担任の情報共有と連携により、組織的な生徒指導・教育相談体制を構築する。

### 6 国際交流の推進

- グローバルな視野を持たせるため、国際交流を積極的に推進する（オーストラリアのマンズフィールド高校との姉妹校提携）。

### 7 広報活動

- 新聞などメディアを積極的に活用して広報活動を推進する。
- 中学生・保護者にアピールするため、ホームページを積極的に活用する。

### 8 働き方改革2018の推進

- 「早く家庭に帰る日」「ノー残業デー」の徹底。管理職が最後の施錠をする。
- 学校閉庁日の設定（8月13日～15日）



## 今後の方向性

### 1 進学重視型単位制高校としてのコンセプトの確立

- 平成31年度入学生の教育課程を着実に実施するとともに、3年間で進学重視型単位制高校としての基盤をつくる。

### 2 ICT環境の整備

- AL型授業、探究活動を積極的に導入するために、ICT環境を整える。